



清泉女子大学 竹田文彦教授

<キリスト教を知る> (2018年12月10日)

○清泉女子大学の竹田文彦教授より掘り下げたご講演を頂きました。
○内容をまとめ一部は調べてここに記します。

(文責：岩淵美智子)



清泉女子大学にて

1) キリスト教はどのように発祥したの？

- ・キリストが生まれる前のユダヤ教がその母体となっている。
- ・ユダヤ民族は歴史的に他民族から激しい迫害を受けていたため、救世主の出現を待望していた。
- ・そこへ紀元1世紀にイエスが現れ、救世主と信じられるようになった。
- ・イエスは「唯一の神を信じる者は誰でも救われる」と説き、ユダヤ民族のみを救うとするユダヤ教を批判したため、エルサレムでユダヤの裁判にかけられ十字架の死に追いやられた。
- ・埋葬の3日後にイエスは復活し、イエスは人類の救い主(キリスト)と信じられるようになった。
- ・イエスと弟子達はユダヤ教指導者達から弾圧を受けながらも、キリスト教は広まっていった。

2) キリスト教の教えの中心は何？

- ・教えの中心は「愛」。
- ・「心を尽くし、思いを尽くしてあなたの神を愛せよ。自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」(聖書)にあるように、「神を愛す」と「隣人を愛す」という「二つの愛」が中心。
- ・神を愛して、神を信じ、神が望んでいることを行う。
- ・隣人に対しては、自分がしたいことではなく、神が望むことを行う。
- ・そうしていれば自ずと正しい生き方ができる。

3) 死後の世界はどうなっているの？

- ・キリスト教では、人は一度死んだらそれで終わり転生輪廻はない。
- ・死後は「天国か、煉獄か、地獄」に行くことになる。
- ・多くの人は、天国にも行けず地獄にも墜ちないで煉獄に行く。
- ・煉獄で罪を清めることができた者は天国に行く。
- ・キリストの「復活」は特別である。



4) 終末思想と最後の審判とは？

- ・「歴史は終末に向かい進んでおり、人類には最後の審判が下される」という「終末思想」を信じる。
- ・この世界は悪も存在し混沌としているが、究極的には世界史は完成し神の国が到来する。
- ・世界の終わりにキリストが再臨し、敬虔な者には永遠の命を与え、不敬虔な者は地獄に墮ちる。
- ・信者にはキリストの再臨は希望となり、不条理や苦難に満ちた人生を生きる勇気の根源となる。
- ・「最後の審判こそが救いの完成」ととらえる。

5) カトリックとプロテスタントの違いは何？

	【カトリック】	【プロテスタント】
司祭	神父と呼ぶ	牧師と呼ぶ
礼拝	ミサと呼ぶ	礼拝と呼ぶ(worship)
礼拝で	パンとドウ酒を口にする	聖書朗読と聖書説教が中心
マリア様	極めて重要な存在	大きな存在ではない
司教	バチカンの法王が任命	信者が選ぶ
信仰の在り方	共同体意識が強い (大乘仏教的)	神と私という個人の部分が強い (小乗仏教的)
司祭	独身	妻帯していい
修道院	男子修道院と女子修道院がある	無い

